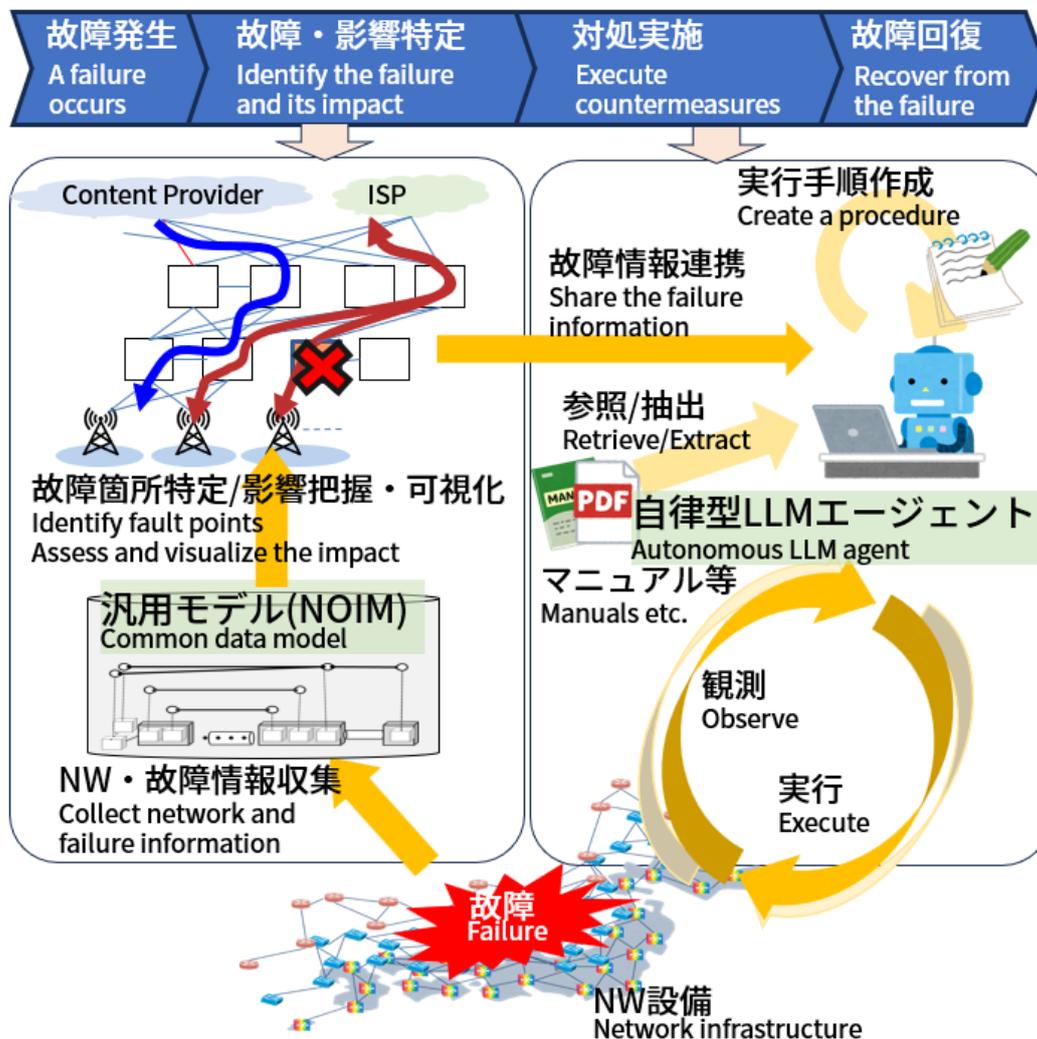


NW故障影響把握・対処ナビゲーション技術

通信事業者が、NWの複雑な故障への対応支援により、速やかにサービスを復旧します

#業務効率化



///技術課題

大規模なネットワーク（NW）での故障対応では、複数のNWの管理情報を用いた分析が必要ですが、管理が区々となっているためNWを跨いだ影響把握や迅速な対処方法の導出が非常に困難です。

///研究目標

あらゆる社会サービスを支える重層的なNW基盤においても、故障の影響可視化と対処のナビゲーションにより、30分以内にサービス影響の初報発出、60分以内の回復対処をめざします。

---要素技術

- RAN・伝送・コアなどの複数NWをまたぐ一元管理および可視化を実現する汎用データモデル(NOIM)
- アラームをもとにした故障推定ルール自動生成技術
- 状況に即した手順の検索と組み合わせによってLLMの推論能力を向上させる、独自のLLMエージェント技術

---適用ビジネス

電気通信事業において、

- モバイルNW含む一元的なNWリソース管理と故障箇所推定・影響把握（2025年度頃技術確立）[30分以内の初報発出]
- 故障回復対処の迅速化（2026年度頃技術確立）[60分以内の回復対処]

---市中技術差異点

- マルチドメイン、マルチレイヤを統一的に扱えるモデルによりさまざまなサービスにおける故障の影響把握および故障箇所推定を汎用的なロジックで実現
- NWの故障復旧において、一般的なLLMエージェントの手法と比較して高い精度のナビゲーションを実現